

今年度夏季賞与 1.55 カ月・6 月 30 日支給 (0.05 カ月減)

2022 年 6 月 6 日、本年度第 1 回団体交渉が開催された。交渉内容は今年度の賞与についてである。法人側から学生数の推移や事業活動収支予算書(ホームページで公開されるので、予算決算額はそこでご確認いただければと思います)などの提示があり、その内容の重要点を要約すると次のようになる。

- (1) 学生の納付金額が少ない(収容定員充足率が低い)。
- (2) それでも必要な経費を削減するわけにはいかない。
- (3) 今年入学した学生数が昨年より少ないから、経営上、より厳しい状況にある。
- (4) 人件費を大きく削減することはできない。
- (5) 第三者評価で改善事項として求められた薬学部(注)の収容定員充足率の改善について、入学定員を削減し、年次計画案も示している。
- (6) 文科省のヒアリングでも経常収支差額の改善が求められている。
- (7) 上記項目について、来年すぐに改善できるものではないので、何年間かけてそれに向けて努力していかなければならない。

このような背景のもと、法人側が提案した支給率は、「夏季賞与については 0.1 カ月減、冬季賞与については変更なし」という厳しいものであった。無い袖は振れないのは重々承知している。0.1 カ月減は、平均で約 5 万円の賞与額が減ることになり、ダメージがかなり大きい。法人側の提案に対し、即座に回答することは避け、団交参加者で話し合うこととし、後日の三役交渉まで回答を待っていただくことにした。なお、住民税が変わったこともあり、給与日と賞与支給日がどちらも 6 月 24 日(金)になると、人事課が多忙を極めるため賞与と支給日を 6 月 30 日(木)に変更してほしい依頼があった。これに対し、ローン返済などの諸事情により賞与をあてにしている教職員もいるかもしれないので、事前にその点について周知していただくようお願いした。

薬学部の入学者数が少ないのは非常に問題である。入学者数は賞与に関係するだけでなく、その存亡にも関連する。「北陸大学といえば薬学部」という声があるというコメントも法人側からあった。薬剤師国家試験合格率が低いままだと、受験生に選ばれない大学となるため良くない。そこで、薬学部の定員数が低いことや薬剤師国家試験合格率が低いことについて、法人側と薬学部とで意思疎通はできているのか尋ねた。「今の合格率を見て、高校生は本学を受験したいと思わないと判断しても不思議ではない。ここはいつか改善しないと悪循環を生むだけで、その点のことは教学運営協議会のところでも話はしてあるし、学部長にも直接伝えた。」という回答もあれば、「質保証の点からみて学生が卒業できなかった場合、かつて留年生クラスと通常生クラスとを同時に教育していくことがどれほど大変だったかも理解している。こうなってしまうと、どのクラスも上手いかず、共倒れになってしまう。どちらも教育の質が下がってしまうと判断してもおかしくない。本当に学生にとってどちらの形が良いのか考えたとき、現状の認定スタイルとなっていると理解している。」という回答もあり、法人側の考えは二分している。団交参加者からも合格率を上げるために、6 年生だけに注力しているのでは遅すぎるころもあるので、1 年生から学力の底上げに向けて徹底して全教員が取り組んでいる。時間外に補講も設けて教育に当たってお

り、全エネルギーを注いでいることも述べた。教員の努力については法人側に十分ご理解いただいているようである。団交の場では、本学の存亡のこともよく考えて、教授会で十分話し合って卒業判定するのが大切であるとのことでこの点に関する意見交換を終えた。時間はかかるだろうが、薬学部の国家試験合格率と入学者数が好転してほしいものである。個々がいかに努力しても、賞与に全く反映されない（しかも2年連続で賞与支給率がダウン）もどかしさとやるせなさが残った団交でもあった。

6月14日、三役交渉が開催された。法人側からは、団交の時と同様に「入学者数、定員充足率の低下および財務状況から判断し、0.1ヵ月減を提示したい。本来であれば0.2ヵ月～0.3ヵ月減を要求したいところではあるが…」というものであった。定員充足率が改善されなければ（教育活動収支差額が黒字化されなければ）、賞与の増額ができないということは理解できるが、昨年度の教職員の努力が実際の数値にも反映されつつある。それが定員充足率だけで判断されては、昨年度の努力が報われない。実際に、薬学部では2021年度の留年率が劇的に改善され、中期計画に掲げた1年次留年率の目標を達成しているし、心理社会学科と医療保健学部では2022年度の入学定員充足率が100%を上回っている。この努力を続けていかなければ、定員充足率の改善は望めないし、そのためのモチベーションを維持するためにも0.1ヵ月減という提示は承服しかねる。法人側は、財務状況が厳しいところではあるが、昨年度の教育成果を見ると教職員の努力を十二分に推し量ることができるとし、0.05ヵ月減で妥結することとなった。

このような経緯の下、6月20日付で確認書に押印するに至った。

2017年からの賞与の推移は次のとおりである。

	夏季	冬季	合計
2017年度	1.5ヵ月	1.7ヵ月＋人事考課0～20万円	3.2ヵ月＋人事考課0～20万円
2018年度	1.5ヵ月	1.7ヵ月＋一律10万円	3.2ヵ月＋一律10万円
2019年度	1.6ヵ月	1.8ヵ月＋一律10万円	3.4ヵ月＋一律10万円
2020年度	1.6ヵ月	1.8ヵ月＋一律10万円	3.4ヵ月＋一律10万円
2021年度	1.6ヵ月	1.7ヵ月＋一律10万円	3.3ヵ月＋一律10万円
2022年度	1.55ヵ月	1.7ヵ月＋一律10万円	3.25ヵ月＋一律10万円

2021年度組合総会について

組合総会は、毎年3月上旬に組合結成の聖地であるKKRホテル金沢で開催されている。総会に引き続き懇親会も通常行われる。しかしながら、2022年3月上旬における石川県の新型コロナウイルス感染者数は200～600人であり、組合員の安全を第一に考え、やむを得ず今年も昨年に引き続き開催を延期することとした。2022年度の執行委員の信任決議については、2021年度総会で行われる予定だったが、暫定的に次のように選出している。

2022年度執行委員

執行委員長 荒川 靖
書記長 高橋達雄
会計監査 田端淑矩

副執行委員長 東 康彦
会計 木藤聡一

2020年度組合総会は開催できなかったもので、以下に2020年度の会計資料を添付することとした。2021年度の会計資料添付については、時期を見計らって2021年度組合総会を開催したときに示すこととし、その場で会員の皆様から承認を得たいと考えている。

2020年度の会計資料

2020年度北陸大学教職員組合決算報告書 (2020.2.25～2021.2.24)

収支計算書

I 収入の部	予算	決算
前年度より繰越	9,573,582 円	9,573,582 円
組合費	300,000 円	598,000 円
寄付	- 円	0 円
金利	- 円	57 円
行事収入	30,000 円	0 円
雑収入	- 円	0 円
合計	9,903,582 円	10,171,639 円

II 支出の部	予算	決算
事務用品費	25,000 円	220 円
郵便・通信費	25,000 円	6,809 円
コピー・印刷費	25,000 円	45 円
資料収集費	25,000 円	0 円
上部団体納入費	150,000 円	99,000 円
旅費等出張費	100,000 円	0 円
会議費	25,000 円	0 円
弁護士費用	100,000 円	0 円
振込費等会計処理費	10,000 円	440 円
慶弔費	100,000 円	20,000 円
行事費	200,000 円	0 円
予備費	150,000 円	0 円
合計	935,000 円	126,514 円

収支残高	10,045,125 円
------	--------------

貸借対照表

I 資産の部	
預金残高	9,755,245 円
(内訳)	
北陸銀行	643,263 円
郵貯銀行総合口座	35,735 円
通常貯蓄貯金	7,298,447 円
金沢信用金庫	- 円
郵便振替口座	1,777,800 円
現金残高	289,880 円
合計	10,045,125 円

II 負債の部	
借入金	- 円
合計	- 円

以上のように決算報告をいたします。

2022年6月22日

会計

木藤 聡一



以上の決算は正確であることを証明します。

2022年6月22日

会計監査

田端 淑矩



荒川執行委員長の抱負

私は今年度を以て、組合執行委員長を退くことになります。そこで、私個人の抱負に代えて、改めて教職員組合の実績と存在意義をお示ししたいと思います。

当組合は、理事会の刷新を機に、それまでに無かったほど穏やかに労使の歩み寄りを図ることができるようになり、賞与額も団体交渉、三役交渉を通じて組合側の要求を法人に受け入れてもらうことが可能となりました。まずは、要求の激しい一般の労働組合ほどではありませんが、組合の主目的たる労働条件・待遇の改善を図ることができたものと自負しております。

また、私はとても大切な組合の役割に気付きました。それは、団体交渉や三役交渉において、組織内における正規業務ルートを通じて伝達された「事実からズレた情報」の修正が可能となることです。一般に組織では現場における現実とその問題点という情報が、正規ルートでは段階的に職位が下位のものから上位へと伝言ゲームのように伝えられるのですが、どうしても元情報が中間伝達者の意識によって切り捨てられたり、加えられたりして、かなり変化した情報としてトップに伝わってしまいます。この情報に基づいて施策が決定されるのですが、それでは真の問題解決を図ることができないのは自明です。

今までにも団体交渉や三役交渉の場で、ある事象に対する労使の意識に乖離が見られ、労使がお互いに「え？」となるような状況が数々生まれていましたが、交渉の過程で事実を相互に確認、修正することができるようになりました。現在の本学における労使交渉では忌憚のない意見を自由に発言できるようになっていますが、これは本学の正常化や発展に欠かせないものと私は痛感しています。こういった姿勢を皆様には続けていっていただきたいものと思っています。

大学が生存競争に生き残るために、労使がともに協力し合って、様々な問題を解決していけることを祈念してやみません。皆様にもどうかご協力をいただければ幸いです。

東副執行委員長の抱負

北陸大学に勤めてから 20 年以上経ちます。ここ近年は仕事量がぐんと増えたように思います。それと同時に賞与も増えればいいのですが、本組合ニュースからも分かるように、ここ数年は少しずつ減っています。このままでは教員の士気は上がりません。薬学部においては、教育研究に支障を来し、薬剤師国家試験の合格率は向上しません。教職員が気持ちよく教育研究に打ち込めるよう、機会あるごとに働きかけていきます。この状況を変えなければなりません。組合の支持と建設的なご意見をよろしくお願いいたします。

高橋書記長の抱負

やりがいのある職場で働きたい！やりがいのある職場環境を作りたい！その一心で組合活動に取り組んでいます。賞与だけではなく、我々の要望を法人に伝えて、やりがいのある働きやすい職場にしていきませんか。そうして我々が一致団結することが、教職員にとっても学生にとっても最高の大学を作ることに繋がっていきます。教職員の声を集めることが、その第一歩となりますので、皆様のご意見をお聞かせください。

お問い合わせおよび組合入会連絡先
荒川・東・高橋達雄・木藤

北陸大学教職員組合ホームページ <http://www.hussu.jpn.org>